

# 『高知県史』編さん事業の概要

資料1-1

## 1 背景と目的

- 前回県史から40年以上経過し、学術的に歴史研究が進展している。
- 世代交代や大規模災害の発生等により、貴重な歴史資料の散逸が懸念される。
- 戦時世代が80歳以上となり、聴き取り調査の限界を迎えている。



県政150年にあたる令和3年度から県史編さんを開始

本県のあゆみを後世にしっかりと伝え残すことで、本県の歴史への理解と郷土への愛着、歴史研究を担う人材を育成するとともに、成果を教育での活用や観光振興につなげていく。

## 2 編さんの基本的な方向性（高知県史編さん基本方針 R3.10策定）

### (1) 目的

- 本県の歴史の変遷を解明し、本県の学術・文化の振興に寄与する
- 歴史資料を悉皆的に調査し、後世へ伝え残す
- 歴史研究を担う人材を育成する

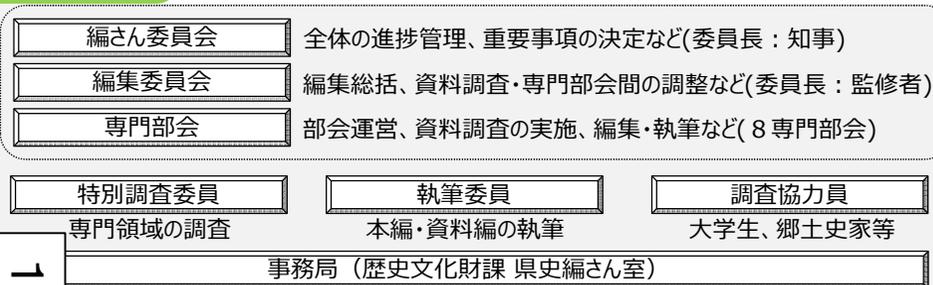
### (2) 方針

- 日本と世界の歴史の流れの中で、本県の歴史的な変遷をとらえる
- （本編）図版等を多く活用し、県民に分かりやすく親しまれる記述にする
- （資料編）本県の特徴的な資料を採録し、地域の偏在がないように心がける
- 資料はデータ収集を原則とし、将来的に幅広く活用できるようにする
- 市町村や関係団体と連携し、多くの県民が携わる体制をつくる

### (3) 構成、期間及び計画

構成：古代・中世、近世、近代、現代、考古、民俗、文化財、自然（8分野）  
 期間：20年間（令和3～22年度）  
 計画：概ね5年ずつ4期に分けて進捗を管理し、必要に応じて計画を見直しする

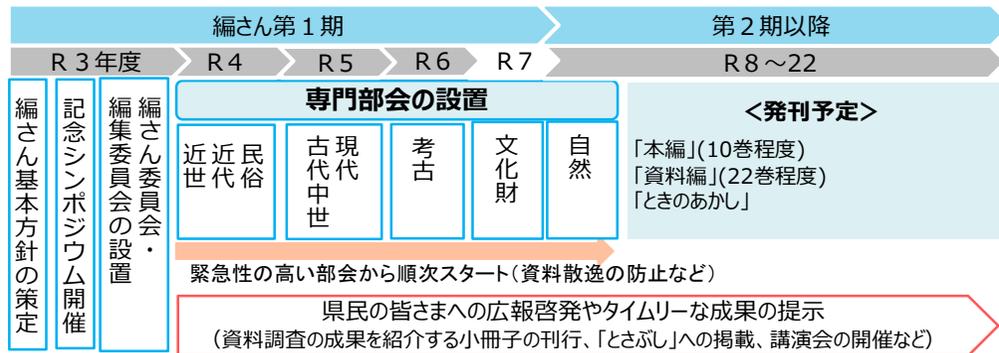
### (4) 組織



## 3 新県史の概要と全体スケジュール



	新県史	【参考】前回県史
編さん期間	20年間（R3～22）	15年間（S38～52）
構成	計32巻程度を想定 <前回県史に現代・文化財・自然を加えた8分野>	計10巻（本編5+資料編5） <考古・古代中世・近世・近代・民俗の5分野>



## 4 令和7年度の主な取組予定



### (1) 編さん体制の構築・運営〔36,330千円〕

- 「文化財部会」の設置
- 編さん委員会及び編集委員会の開催
- 『高知県史』編さん第2期計画作成（全部会）及び編集方針の検討（文化財部会）

### (2) 歴史資料調査・編集の実施〔72,589千円〕

- 各専門部会による歴史資料調査の実施
- 歴史資料の収集等を目的とした調査の委託（古代・中世史料の抽出・分析、古墳の測量）
- 資料編への掲載に向けた翻刻作業（古文書等の活字化）の実施（一部委託）
- 資料編掲載資料の選定及び原稿執筆（近世、近代、民俗）



### (3) 広報啓発・人材育成の実施〔2,848千円〕

- 広報誌の発行
  - ・文化広報誌「とさぶし」での県史特集…多彩な切り口から、高知の歴史の魅力を「より楽しく」紹介
  - ・資料調査の成果を紹介する「ときのあかし」…歴史資料の魅力や調査活動を「より詳しく」紹介
- 成果報告会の開催
- 資料調査を担える人材を育成する「歴史資料調査隊」養成講座の開催

## 『高知県史』の掲載内容に関する主なご要望

資料 2-1

日時	項目	概要	要望者	関係する主な部会（予定）								対応の方向性		
				古代 中世	近世	近代	現代	考古	民俗	文化財	自然			
R3. 11	移民関係 (旧満州, 南米)	旧満州からの引揚げ、また南米移民に関して調査してほしい	県議会議員			○	○							<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回県史にて取り上げた項目。部会内で協議し、担当委員を選任。具体的な調査については今後検討予定。（近代）</li> <li>・令和5年度、令和7年度に満州移民について旧西土佐村にて、令和6年度は南米移民関係について海外資料に関する資料所蔵施設に聞き取り調査を実施。（現代）</li> </ul>
R3. 11 R6. 9	よさこい祭り	よさこいは高知の特色ある祭りであり、歴史等について調査してほしい	県議会議員 大学職員				○				○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の祭礼について、各地域にて調査中。民俗編で「まつり」を項目とし、伝統的な祭礼とともに「よさこい」を扱う案もあるが、確定されたものではないため、今後も検討を進めていく。（民俗）</li> </ul>
R4. 4	南海トラフ地震	新たな県史では、南海トラフ地震など震災関係は、どのように取り上げられるのか	編さん委員					○						<ul style="list-style-type: none"> <li>○各時代の専門部会において、南海トラフ地震など災害の歴史を取り上げる。</li> <li>・本編の構成案で、古代における地震など自然災害を取り上げている。（古代・中世）</li> <li>・資料編の構成案で災害関係を取り上げており、資料調査を進めていく。（近世、近代）</li> <li>・令和7年度に公文書館等で南海地震等の資料調査を実施。（現代）</li> <li>・物部町の久保高井の山崩れ伝説をはじめ、災害にまつわる伝承の残る地域での聞き取り調査を行っていく。（民俗）</li> </ul> <p>⇒災害時の伝承等の調査状況については、今回の編さん委員会で報告。</p>
R4. 7	仁淀川水系の 水害	日高地区の水害の歴史について取り上げてほしい（鎌田堰の影響による洪水発生、村に明治以降の治水関係資料あり）	日高村		○	○	○	○				○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・物部町の久保高井の山崩れ伝説をはじめ、災害にまつわる伝承の残る地域での聞き取り調査を行っていく。（民俗）</li> </ul> <p>⇒災害時の伝承等の調査状況については、今回の編さん委員会で報告。</p>
R4. 9	大寺廃寺	高知市春野の大寺廃寺について、本県の古代史の解明が期待できるため、発掘等の調査をしてほしい	春野文化財 友の会	○					○			○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の古代寺院については、古代・中世、考古及び文化財部会において、地元自治体と連携しながら調査地の検討・部会協議を進めていく予定。（事務局）</li> </ul>
R4. 10	ビキニ環礁被曝	新たな県史編さんにあたり、被災の実態を県としても調査・記録し、後世に広く伝えるよう記載してほしい	県議会議員				○							<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビキニ被災に限らず、重要な戦後の歴史を取り上げていく。（事務局）</li> <li>・令和5年度に宿毛市、令和6年度に室戸市にて調査実施。（現代）</li> </ul>
R4. 10	幡多地区の歴史	高知市中心の歴史だけではなく、幡多の歴史も取り上げてほしい（文武館、法然上人、迅衝隊など）	樋口真吉 顕彰会					○						<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度に、幡多地域をフィールドとした資料調査を実施。民俗部会は、令和7年度に合同調査を実施予定（近世）（現代）（民俗）</li> <li>・令和6年度以降も調査実施予定しており、既に令和6年度近代部会の合同調査では四万十市の郷土博物館や土佐清水市の議会事務局等で調査を実施した。（古代・中世）（近代）（考古）</li> <li>・現代資料編では、高知県西部(主に幡多地域)に焦点をあてた構成を検討。</li> </ul>
R5. 4	昭和の教育	昭和時代の本県の教育史を知る方は年々少なくなっており、昭和の教育史に力点を置いてほしい	高知新聞 オピニオン			○	○	○				○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度に県立高知小津高等学校の資料調査を実施。（近代）</li> <li>・令和5年度から継続して県内のへき地教育等に焦点をあてて、当時の教育と子供の家庭の現状を確認し、地域の暮らしを明らかにする調査を実施。（現代）</li> <li>・令和5年度に県立高知工業高等学校及び県立春野高等学校の校友会資料、土佐清水市旧大津小学校資料の調査を実施。（近代）（現代）</li> <li>・令和6年度には土佐女子中学高等学校、市立高知商業高等学校の資料調査を実施。（近代）</li> </ul>
R5. 10	海外資料の調査	資料調査活動を県内にとどまらず、海外も視野に入れて積極的に行ってほしい	県議会議員					○						<ul style="list-style-type: none"> <li>・本県に関する資料が海外にも所在することを把握している（戦争関係資料など）。そこで、現地の県人会などの協力のもと情報を収集し、必要性を精査したうえで海外調査を検討。</li> </ul>
R6. 6	無形の文化財の 記録化	伝統工芸などの貴重な技術を次の世代に引き継ぐために、(製作過程などを)動画で残すなど、早く調査してほしい	県議会議員								○	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査における資料採取は、できる限り写真や動画などデジタルデータで収集・保存している。</li> <li>・伝統工芸など無形の文化財は、関係の専門部会で協議のうえ調査を進めるが、収集したデジタルデータは、将来的に公開を検討しているデジタルアーカイブで共有するなどにより、次の世代への継承につながるよう取り組む。</li> <li>・令和7年度から県内の国及び県指定の無形文化財について、文化財の価値、指定の経緯、活用事例などを調査しデータ化を進める予定（文化財）。</li> </ul>
R7. 4	文化史や宗教史の 掲載	文化史、特に文学史を取り上げてほしい。宗教史（四国遍路や県内の宗教の広がりなど）も取り上げてほしい。	県議会議員				○							<ul style="list-style-type: none"> <li>○宗教や文化に関しては、現在、各時代の専門部会では、刊の構成（章や項立て）議論しておりその中で検討する。（検討例）</li> <li>・資料編2における史料の収載。（古代・中世）</li> <li>・資料編2・3における史料の収載。（近世）</li> <li>・資料編に「宗教と文化」の章立てを検討。（近代）</li> <li>・資料編に「教育・文化」の項立てを検討。（現代）</li> </ul>

## 執筆委員・特別調査委員の委嘱方法について

## (1) 趣旨

執筆委員とは、各専門部会の委員以外に、調査結果を基に県史の執筆を担う方をお願いする委員である。また、特別調査委員は、各専門部会の部会員だけでは対応できない専門領域の調査を担う委員である。

現行の基本方針のままであれば、委員を委嘱するために通常年一回の編さん委員会の承認が必要となる。

一方で、今後、各部会の刊行が本格化するため、特定の専門分野に知見を有する方などに執筆のご協力をいただく機会が増加することが想定されている。

その際に、現在の委嘱方法では、機動的な対応が難しくなることが想定されるため、委嘱に係る規定を「高知県史編さん基本方針」から、「高知県史編さん編集委員会設置要綱」に規定を移し、時宜に応じた対応を図ることとしたい。

このことから、以下の案のとおり改正したい。

## (2) 改正(案)

該当項目を削除（資料 2 - 2 別紙 1 及び別紙 2 参照）。

新

## 高知県史編さん基本方針

- 第1 略
- 第2 略
- 第3 略
- 第4 略
- 第5 略
- 第6 略
- 第7 略

## 第8 組織

県史の編さんに当たり、高知県史編さん委員会、高知県史編さん編集委員会、高知県史編さん専門部会及び高知県史編さん事務局を置く。

- 1 略
- 2 略
- 3 略
- 4 略

(削除)

5 庁内に高知県史編さん事務局を設け、県史の編さんに必要な資料調査、執筆・校正の補助、事業全般の庶務等を行う。

- 第9 略
- 第10 略

旧

## 高知県史編さん基本方針

- 第1 略
- 第2 略
- 第3 略
- 第4 略
- 第5 略
- 第6 略
- 第7 略

## 第8 組織

県史の編さんに当たり、高知県史編さん委員会、高知県史編さん編集委員会、高知県史編さん専門部会及び高知県史編さん事務局を置く。

- 1 略
- 2 略
- 3 略
- 4 略

5 各専門部会の部会員だけでは対応できない専門領域の調査を担う「特別調査委員」並びに各専門部会の調査結果を基に県史の執筆を担う「執筆委員」を必要とする場合は、高知県史編さん編集委員会での協議を経て、高知県史編さん委員会の承認を得た上で適宜必要な委員を委嘱することができるものとする。

6 庁内に高知県史編さん事務局を設け、県史の編さんに必要な資料調査、執筆・校正の補助、事業全般の庶務等を行う。

- 第9 略
- 第10 略

新

## 高知県史編さん編集委員会設置要綱

(目的)

第1条 略

(所掌事項)

第2条 略

(組織)

第3条 編集委員会は、委員長、副委員長及び委員で組織する。

2 略

3 略

4 略

5 略

6 各専門部会の部会委員だけでは対応できない専門領域の調査を担う「特別調査委員」並びに各専門部会の調査結果を基に県史の執筆を担う「執筆委員」を必要とする場合は、各専門部会の協議を経て、適宜必要な委員を委嘱することができるものとする。

(任期)

第4条 略

(会議)

第5条 略

(事務局)

第6条 略

(その他)

第7条 略

附 則 略

附 則

※第3条6項 この要綱は、令和7年9月〇日から施行する。

旧

## 高知県史編さん編集委員会設置要綱

(目的)

第1条 略

(所掌事項)

第2条 略

(組織)

第3条 編集委員会は、委員長、副委員長及び委員で組織する。

2 略

3 略

4 略

5 略

(任期)

第4条 略

(会議)

第5条 略

(事務局)

第6条 略

(その他)

第7条 略

附 則 略

## 古代中世部会 活動報告

## 1 主な部会活動

## (1) 調査

- ・2024年9月10～11日 岡山県林原美術館における「石谷家文書」(3巻47通)の熟覧調査を実施。
- ・2024年12月17日 オーテピア高知図書館における「土佐国蠹簡集」の調査・撮影を実施。
- ・2025年1月18日 愛媛県立文化博物館および等妙寺旧境内の踏査を実施。
- ・2025年3月27～28日 京都市歴史資料館所蔵「永運院文書」(2点)および京都大学総合博物館所蔵「西山地蔵院文書」他(29点)の調査を実施。
- ・2025年6月4日 愛媛県立文化博物館所蔵の長宗我部氏関係文書、同土佐一条家関係文書の調査を実施。
- ・2025年度中 東京国立博物館所蔵「香宗我部家証文」の調査を実施予定。

## (2) 編集

- ・全体構成の確認、具体的作業方針の確定(2024年9月13日第6回古代・中世部会)
- ・凡例に関する検討(2024年12月18日第7回古代・中世部会)

## 2 「石谷家文書」調査報告

- (1) 目的 長宗我部氏存亡の危機となった、天正9年(1581)の織田信長政権との対立関係を中心として、激動の戦国期における土佐のおかれた状況を明確にすることを目指した。
- (2) 調査内容 中世担当委員7名が参加し、天文4年(1535)～天正15年(1587)におよぶ47通(3巻)全点を熟覧し、翻刻テキストの確認・修正などを実施した。
- (3) 全点を、参加委員全員が1点ずつ熟読することで、これまでに公刊されていたテキストについて修正すべき点のあること、年次比定などや状況認識をめぐって再検討を要するものがあることが判明した。本能寺の変の解釈にも関わる重要史料であるから、今後さらに精査・検討を深めて、資料編・本文編に反映させることを予定している。



## 現代部会 活動報告

令和7年9月5日  
現代部会正副部会長

**1 主な部会活動****(1) 資料調査・聞き取り調査**

- ①**県内公的機関の資料調査**—県立公文書館・オーテピア高知図書館・市町村役場等  
地方長官引継書、知事引継書、地域開発(西南開発構想)、駐在保健婦制度、福祉(旧満州地域からの引揚)、災害関係、教育関係(へき地教育・福祉教員)、移住関係(国内外県人会等)、地域振興(道の駅など)、各自治体広報誌 等
- ②**県内団体等への資料調査・聞き取り調査**  
第1次産業(県農協・県漁協・県木材協会)、第2次産業(県酒造組合・県工業会・県建設業協会・県鉱業会)、第3次産業(四国銀行・とさでん交通・県看護協会・県国民健康保険連合会ほか)
- ③**高知県人会等への資料調査・聞き取り調査**  
関東高知県人会・京都高知県人会・大阪高知県人会・名古屋高知県人会・尼崎高知系県人会・広島高知県人会・北海道高知県人会連合会・大阪東洋会

**(2) 編集作業****①資料編の構成**

各巻は2部構成。第1部は高知県全体、第2部は各地域の資料収録。第1巻の第1部では1980年代までの県全体の資料を、第2部では高知県西部の資料を戦後全体にわたり重点収録する。

**②具体的な協議内容**

令和5年6月の第1回部会以来、現在までの部会で、資料編第1巻の構成、目次案、仮目次、配分ページ、資料選定の協議を継続。

**2 調査報告(四万十市西土佐での調査事例) ※資料編1巻第2部で掲載予定****(1) 目的 地域の取り組み調査 「西土佐を生きる、西土佐をつくる」**

このテーマのもとで、満州移民と引揚げから地域づくり(山村振興、朝市、満州体験継承等)に至る例を、資料と聞き取り調査で戦後から現在まで明らかにする。

**(2) 調査内容**

四万十市西土佐における満州分村移民から戦後引揚げ、中国残留孤児の調査と記憶、西土佐のくらしと地域づくりについて調査を重ねる。とくに、西土佐のくらしと地域づくりでは、①1970年代の山村振興対策、②権谷せせらぎ交流館を拠点にした満州体験の交流と継承、③道の駅「よって西土佐」の駅長と満州移民継承活動の聞き取り、④女性グループの野菜づくりと朝市出荷などで、資料と聞き取りの調査を進めている。

**(3) 調査結果**

①**満州移民・引揚げまでで調査を終えるのではなく、その後、地域づくりまで含めた調査により戦後全体を資料で示すところに大きな特徴**があり、今までの自治体史でも例の少ない取り組み。②**満州移民で帰村した女性の聞き取りから多くを学ぶ**(**辛苦を重ねた引揚げと戦後のくらし、せせらぎ交流館での支援と交流、90歳を超えても朝市に野菜を出荷し、「西土佐の野菜はおいしい」という評判を含めて地域での生業とくらしを続けている**)。



## 近代部会の編集と調査

2025/9/5 近代部会長 羽賀祥二

## 1, 資料編 2 の編集状況 \*刊行は 2028 年 3 月

(1) 対象とする時期 1889 年 (明治 22) から 1919 年 (大正 8)

市制・町村制の施行・立憲体制の成立～第一次世界大戦終結・米騒動の勃発

(2) 構成

I 政治・行政 II 戦争と社会 III 疾病・災害と地域管理 IV 産業・経済 V 社会・社会運動

VI 教育 VII 文化 VIII 宗教 IX 人口と移動 (人口の推移・国内移住と海外移民)

X 特論 (山内家・旧家老家・旧藩士族の動向、四国霊場・西国巡礼、室戸・足摺、土佐人論など)

(3) 編集スケジュール

2025 年 7 月～2026 年 8 月 掲載資料の選定及び文字起し (翻刻) の作業

2026 年 9 月～2027 年 3 月 掲載原稿の作成 2027 年 4 月～2027 年 12 月 入稿・校正作業

## 2, この 1 年間の資料調査

(1) 合同調査 四万十市・大月町・土佐清水市 (2024 年 9 月)、土佐市 (2025 年 3 月)

(2) 個別調査 オーテピア高知図書館・高知県立歴史民俗博物館・高知市立民権記念館など

(3) 巡検調査 旧中村市街・旧中浜小学校・足摺岬、旧高岡郡内の民権遺跡、旧香美郡・旧土佐郡の災害遺跡

## 3, 調査事例の紹介——野中兼山関係遺跡及び灌漑施設の調査

(1) 香美市の山田堰跡 万治元年 (1658) 竣工 物部川に堰を造築、舟入川 (灌漑用水、高知への舟運)

A 香美市・山田堰跡



B 春野神社 (祭神野中兼山)



C 「重修山田堰之碑」 (1896 年 1 月建立)

## (2) いの町の鎌田堰跡 明暦元(1655)年竣工(堰は現存せず)



JR土讃線・仁淀川鉄橋右岸

(表)「堰址」(裏)「昭和七年夏鎌田堰井筋普通水利組合建之」

## (3) 甫喜峰疎水(穴内川分水) 香美市土佐山田町 1893年(明治26)・1894年の旱害後、1900年竣工



野中兼山の構想

〈篆額〉林有造

〈撰文〉衆議院議員・工学博士

白石直治

山裾に疎水が流れる(土佐山田町須江)

「甫喜峯疎水碑」1919/1/3 喜峯普通水利組合建立

## (4) 論点

①いつ頃から、誰によって、どのような理由で、野中兼山の再評価がなされるようになったのか？

②白石直治とはどのような人物か？

1857年(安政4)～1919年(大正8) 長岡郡十市村生まれ、東京帝大工科大学土木学科卒業

1883～1887年 アメリカ留学、橋梁工学を学ぶ、その後ベルリン工科大学でも学ぶ

東京帝大教授、九州鉄道社長、関西鉄道社長、猪苗代水力電気会社、若松築港会社

実父・久家種平(土佐藩儒)、義父・竹内綱、妻・白石菊(吉田茂姉)、叔父・中島信行

③高知出身が生んだもう1人の土木工学者は誰か？

廣井勇 文久2年(1862)～1928年(昭和3) 高岡郡佐川出身 伊藤蘭林に学ぶ

札幌農学校卒業、1883年アメリカ遊学、橋梁建設に従事、帰国後、秋田築港・小樽築港に従事

## 民俗部会 活動報告

## 1. 主な部会活動

## (1) 調査

- ・ 前回の編さん委員会以降、東洋町合同調査ほか計 10 回の現地調査を実施。
- ・ 現在、四万十市・宿毛市合同調査や、高知市介良の二期作農業調査等、5 回の現地調査を予定。

## (2) 編集

資料編 1 (令和 9 年度刊行)

- (1) 民話、民謡、地名の 3 部構成とする。
- (2) 民話は、民間神話・伝説・昔話・世間話・人物譚の 5 章を予定。地名は、総論・自然と地名・人と地名・現代社会と地名の 4 章にコラム欄を設ける。
- (3) 民話、地名について現地調査を実施：  
香美市物部、宿毛市沖ノ島、香南市羽尾、等。
- (4) 高知県の民話のデータベースを作成：  
現在 10,774 項目(322 冊)まで作成済み。
- (5) 高知県立文学館所蔵の民話録音テープのデジタル化。
- (6) 民謡の音源データを元に楽譜を作成中。



香美市物部での災害伝説の調査

## 2. 調査報告

## (1) 目的

地震・山津波に関する民俗調査

## (2) 調査内容

- ・ 地震の発生時に「カアカア」と声を上げるのはなぜか。
- ・ 天明 8 年(1788)の蕪生の山津波(香美市物部)は現在どのように伝えられているか。

## (3) 調査結果

- ・ 大地の揺れを感じたとき、東北や関東では「まんざいらく、まんざいらく」と言い、京都や大阪では「世直し、世直し」と言う。沖縄では「きょうつか、きょうつか」である。地震を鎮めるまじない言葉で、地方によって異なるが、高知県では「カアカア」と大声で唱える。昭和南海地震(1946 年)の時にも、揺れるや否やカアカアと叫ぶ人がいたことが県内の各地から報告されている。幕末の土佐に甚大な被害をもたらした安政南海地震(1854 年)の際にもこの言葉を発したことが知られている。調査の結果、現在も記憶している人が少なくないことがわかった。カアカアは何を意味するのであろうか。通説では「川を見よ」のことだといわれ、川の水位が極端に下がった水涸れ状態は、津波や山崩れが起きる前兆だという。しかし、伝承の現場に目を向けると、この解釈については検討の余地があるように思われる。多くの場合、揺れを鎮めるために咄嗟に口を衝いて出る呪文の意味合いがつかない。カアカアをカラスの鳴き真似とする事例も散見する。
- ・ 天明 8 年 7 月 26 日の夜半、蕪生郷久保村で大規模の山崩れ(山津波)が発生した。番所(関所)を預かる久保源兵衛を含む 28 名が犠牲になった。『南路志』巻 13 には、当時の被災状況が記されている。この山崩れは「蕪生の山つえ」などと呼ばれ、伝説としてながく語り継がれてきた。伝説では山崩れの原因を、毒流しによって谷川の魚類を根絶やしにしたことが、淵のヌシの怒りにふれたためと語られる。かつて、文字に縁のなかった人々は、災害の記憶を物語(伝説)として心に刻み、ゆかりの事物とともに代々口承で伝えてきた。
- ・ 高知県には、津波、山崩れ、洪水など自然災害にまつわる民話(伝説・昔話・世間話)が各地に伝承されている。その背景について多方面から調査を進める必要がある。

## 考古部会 活動報告

### 1. 主な部会活動

#### (1) 調査

##### ①履歴

旧石器遺跡現地確認、沖の島三浦氏関連資料、鶴来島戦争遺跡、物部川旧流路および大湊跡、本山町内の近世遺跡、国分寺および古代の廃寺関係資料、新改横走古墳石室

##### ②予定

古墳時代前期土器、朝倉古墳石室、大月町内の山城、沖の島三浦氏関連資料、薊野の法経堂（民俗部会と合同）、戦争遺跡基盤情報作成

#### (2) 編集（資料編 1（R7 年 7 月 28 日第 3 回部会協議））

- ・考古学史は資料編の各巻毎にテーマを分けて収める。
- ・時代毎のページ数は包蔵地データベースを基に 1 遺跡あたり平均 3 頁記述で算出。
- ・旧石器・縄文時代の編集は進行中、弥生・古墳時代の掲載遺跡の絞り込み開始。

#### (3) 成果公開

四万十市でタキモト城跡の調査についての講演会（予定）

### 2. 調査報告（「若宮ノ東遺跡出土の刻書土器」の調査方針について）

#### (1) 目的

令和 7 年 1 月の『若宮ノ東遺跡Ⅲ』（高知県文化財団埋蔵文化財センター）で、国立歴史民俗博物館名誉教授平川南氏の刻書へのコメントが掲載され、県外にも広がるニュースとなりました。考古部会では県史に、この土器が出土した歴史的な意義を叙述することが必要であると考えました。



（写真）若宮ノ東遺跡出土刻書土器

#### (2) 調査の経過と方針

3 月からセンターと共同で、この土器が発見された時の状況を検討し、現時点ではこの土器の年代を、およそ 3 世紀頃と考えています。今後は自然科学的調査を進め、年代と土器の産地を詳細に検討したいと思います。

ちなみにこの頃から畿内では古墳が造られ始めます。高知県でも弥生時代から古墳時代へ社会が変化する時期とされ、県外からの土器が多くみられます。ただし 5 世紀までは高知県の古墳の発見は極めて少なく、古墳時代前半の高知県は、畿内とは異なる独自の社会と文化を持っていたようです。考古部会ではこのような状況をふまえ、この土器が高知県に訪れた新しい時代を具体的に示し、また畿内と異なる独自の社会と文化を示す象徴と考え、あらためて周辺の遺跡や一緒に発見されている様々な資料の調査を総合的に進めています。現在の一つのテーマは畿内以外の地域との関係です。今後、調査を進め、刻書土器が発見された意味を日本列島と東アジアの歴史の中で検討し、畿内とは異なっていた古墳時代前半の高知県とはどのような社会だったのかを明らかに出来るよう、調査を進めてまいります。